

「過去～現在～未来」 働く女性を取り巻く環境と支援

中山間地域編

女性の働き方は時代とともに変わってきます。

伝統的な農業や、地域おこしでも女性らしい視点で大きな可能性に挑戦しています。



農業組合法人 福の里
女性部 中野 逸子さん

豊かな地域を目指して
女性の力で切りひらく“農”

◎ 今日までの活動について
教えてください。

昭和43年、兼業農家中野家へ嫁ぎました。実家も農業を営んでおり、自分には農業しかないと思っていたので、当時7桁だった農業生産を絶対8桁にしようとして決心して嫁ぎました。

昭和45年以降、減反政策が始まり、私には小菊の栽培を始めました。その小菊が好評だったので、周囲の反対を押し切り、自分名義で1000万円借入れし、小菊の栽培事業を拡大しました。事業は成功し、市場の販売シェアを80%占める程となりました。同時に当初の目標であった8桁農業を実現できました。その間、母として嫁として、子育てと介護も同時に

こなしました。睡眠時間が2〜3時間の事もあり、世間からは女性のくせに生意気だと言われるなど、苦勞も沢山ありましたが、女性でもやればできると思いました。

その頃、農家生活改善士の資格を取り、自分だけが農業経営で成功するのではなく、地域全体で潤わなければならないと思いはじめました。また、地域の女性の思いや考えをなんとか社会へ伝えたい、そのような場所が欲しいと強く思いました。

平成12年、農事組合法人福の里が設立され、女性部の活動として、地元農産物を使った加工品を生産し販売していくため、加工品開発の実習や研修会、また、女性組合員同士の交流会を精力的に行い、女性部の体制作りを普及員と共にじっくりと検討しました。そして平成17年に女性部の設立へと至りました。

◎ 活動されている中での「苦勞や喜び」について教えてください。

当初はノウハウも何もなくゼロからのスタートでしたが、イベントでの加工品販売は好評でした。しかし、加工場がなく、継続的に生産を行うことに苦心していました。

平成18年、加工場と直売所が完成し、本格的に運営を開始しましたが、足りない機器も多く、時には私財を投入するこ

ともありました。

現在39名が在籍していますが、安定した確かな加工活動が行われるよう、常に周りの人に気を配らなければなりません。組合に新たに2集落加わった時は、新しい人たちと気心が知れるようになるまで少し時間が必要でしたが、今では大家族のように良い関係を築いています。

当初、男性だけが組合員でしたが今では女性も全員組合員となり、組合という法人の中で、意見を上げることができるようになりました。100円だった時給も現在は900円となっています。加工品を作り、時給をもらい、皆でお茶を飲み、話し、喜び合えるのが何よりもうれしく幸せなことです。

◎ 活動される上で特に気を付けておられることがありますか？

加工品を生産する上で、作業の班編成には気を付けています。個々の作業スピードなどを考慮し、作業が同時に終わるように班編成をしています。

